

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こども生活ソーシャルサポートセンターBecoming		
○保護者評価実施期間	R7年1月27日 ～ R7年2月20日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	(回答者数)	
○従業者評価実施期間	R7年2月1日 ～ R7年2月1日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	(回答者数)	1人
○訪問先施設評価実施期間	R7年1月27日 ～ R7年2月20日		
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	(回答数)	
○事業者向け自己評価表作成日	R7 年2月1日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	専門職である作業療法士が、学校作業療法（訪問）の学びを得て訪問している	学びを絶やさない	鹿児島県のみならず、他県の訪問の取り組みなども学び、国全体としての教育の在り方・子どもたちのこれからを考える
2	事業所（児童発達支援・放課後等デイ）を利用しているお子さんの状況・状態を把握し、集団参加・社会参加の方向性も含め、あり方を検討し、先生方と話ができる	個の分析と集団の分析を行い、よりよくみんなの中で安心して取り組むことができるための方法を先生と一緒に考える	訪問でお世話になる先生方と目的をしっかりと共有し、その後話し合う時間にメリットがあることを感じてもらえるよう、進める必要がある
3	機能のみでなく、生活の変化やおこさんの環境の成長や参加を分析し、教育を通して先生も含めた、みんなの健康を考えることができる	学びを絶やさない	学びを絶やさない

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	訪問STAFFの育ち	訪問支援員として、訪問する技術を育てることの難しさ	訪問支援の難しさをしっかりと理解すること
2	訪問STAFFからの保護者や施設側へのフィードバック	STAFFと訪問数（訪問頻度）	AI機能での文字起こしなども使用し、取り組んでいただいている取り組みの成果も含め、一緒に考えていく時間を確保する必要がある
3	作業療法士が訪問することでのメリットの伝達	福祉事業の訪問支援員として関わる専門職は様々で、学びの違いや捉え方の視点、提供する技術などもさまざまである。その中で、園や学校側に作業療法士が訪問で入ることでのメリットをうまく伝えることができていないのではないかと感じている	Instagramなども利用し、訪問の重要性や必要性、Becomingが訪問として入るメリットなどを伝えていく